



動画はこちら

一般質問

よしかた ゆきお
芳形 幸夫 議員

質問の
ねらい

農業者支援と補聴器の購入助成

10年後には農家戸数が3割減少し、深刻な労働力不足となることが農業10年ビジョンで示された。農業の将来的な維持・発展のために行われる当別町地域計画協議会について、その開催状況や把握した農家の

実態、出された農業者の声、国や道への要望、後継者支援等について質した。次に、補聴器の購入に関して、低所得者や高齢者には大きな負担であるため、町独自の助成の必要性について質した。

ここが聞きたい 地域計画策定の協議状況

問 令和7年11月7日から28日にかけて、当別町地域計画協議会を開催したとのことだが進捗状況は。

答 地域計画協議会は、令和5年10月から現在

まで全3回開催した。令和6年11月に開催したのは、各地区の農業者との協議の場である。町内を全13地区に分けて、令和6年2月から3月に1回目、11月に2回目を開催した。

ここが聞きたい 出された農業者の実態は

問 当別町地域計画協議会で見られた農業者の実態をどのように捉えているのか。

答 当別町の農業者の共通課題としては、近年の農業機械や資材価格、燃料費の高騰による経営の圧迫、また、地域差はあるが、今後の担い手確保、農地維持が課題として上がっている。

ここが聞きたい 農業者の声を道や国に要望

問 当別町地域計画協議会で出された農業者の意見を基に、農業者の声を国や道に要望することが大切である。国や道への要望について、町の見解は。

答 計画策定地区や計画に位置付けられた農業者は、機械等の導入補助、融資の金利負担軽減など、さまざまな国の支援が受けられるため、まずはそれら支援策の活用が重要と考えている。



稲刈りの様子

ここが聞きたい 親元就農や後継者への支援

問 親元就農や後継者に対する支援が必要だと考えるが、町の見解は。

答 農業10年ビジョンに掲げる「儲かる農業」を目指し、農業に魅力を感じながら営農する意欲

的な農業者の姿こそ、新たな担い手参入に必要と考えている。町としては、国の支援の活用はもとより、スマート農業や6次産業化支援など、さまざまな形で農業者を支援していきたい。

ここが聞きたい 補聴器の購入助成の必要性

問 加齢性難聴はコミュニケーションが困難となり生活の質を下げたり、うつ病や認知症の危険因子になるとの指摘もある。補聴器は欲しくても高額で買えないと聴く。町独自で助成すべきでは。

答 加齢性難聴への助成は国が行うべきと考えるが、独自助成を行う市町村も増えていることや、国による補助制度を求める動きも広がっていることから、国や他自治体の状況を注視していく。

「ページの読みやすさ」について、アンケートにご協力ください。



一般質問

さとう たつ
佐藤 立 議員

質問の
ねらい

少人数学級独自基準のとりやめ

西当別小学校の1、2年生の学級人数は、平成30年に町独自で定め1クラス29人以下という学級編制基準が適用されないまま経過してきている。この度の総合教育会議において、独自基準の取りやめが決定さ

れたが、その経緯経過等について確認する。



動画はこちら

ここが
聞きたい

独自基準とりやめの理由は

問 令和6年6月以降、町教委で検討してきた項目、各検討項目の評価、独自基準をとりやめる結論に至った根拠について改めて説明を求める。

答 主体的・対話的で深い学びと協働的な学びを進める上で、少人数化がプラスに働かない場合もある。現在の複数指導体制が最も効果的であると考えた。現に学力向上が成果として現れている。

ここが
聞きたい

予算の獲得を目指す動きは

問 少人数学級とした上で支援員を配置していくことも検討したが、予算上できなかったのだと思う。予算の獲得を目指す動きはしていなかったのか。

答 予算だけが原因ではなく、非常に教員が少ない状態の中で、担任を任せられるだけの責任を負える人材を確保することは非常に困難。複合的な要因である。

ここが
聞きたい

対話的な学びとクラス人数

問 1クラス35人で対話的な学びが充実するとの説明があったが、そうではないのではないかと。人数と対話的な学びは、全くとは言わないが直接関連するものではなく、職員配置の問題ではないか。

答 少人数学級と少人数指導のどちらの優位性が高いかということにはなりにくい。ただし、現在の複数指導体制で、町の教育が非常に高い水準で進められているため、その状態を保っていききたい。

ここが
聞きたい

西当小 教室の狭さ対策は

問 西当小1年生は37名となり、教室の狭さがギリギリの状態。とうべつ学園は1人当たり3.3㎡あるが、西当小は1.6㎡と看過できない差がある。速やかに具体策を作る必要があるのでは。

答 次年度以降、児童数の状況を見極めながら対応したい。トイレ改修や暖房パネル改修等も必要性の高い事業と認識しており、それらを踏まえて町長部局に予算要求していきたい。

ここが
聞きたい

保護者へ直接説明しては

問 学級編制について、町教委の中でしっかり議論された結論であるため、町教委から保護者に直接説明し、しっかりと理解をいただく必要があるのではないかと。

答 要望書をいただいた代表者には説明を行う。保護者に関しては、校長に会議で伝え、校長から各教員、各教員から保護者という厳然としたルートがあるため、そこから伝えられる。



西当別小学校（太美町）

「ページの読みやすさ」について、アンケートにご協力ください。





動画はこちら

一般質問

いがらしのぶこ
五十嵐 信子 議員

質問の
ねらい

積極的な取り組みで介護人材確保

高齢者が安心して暮らし続けるために、多様な介護サービスが重要な役割を担っている。潜在介護員の把握、外国人人材の登用、介護士への就労支援給付金の検討、有償ボランティアの活用などに積極的に取り組

み、人材を確保することが急務と質した。また、西当別基線川の桜並木を太美の名所として整備すべきこと、避難所備蓄品や防災備蓄計画の公表、災害時の薬剤師は町民の安全を守るために不可欠であると質した。

ここが
聞きたい

介護人材の確保が急務

問 人材不足解消のため、積極的な外国人登用が有効では。また、介護士への就労支援給付金も検討しては。

答 外国人は貴重な人材と認識。その登用は有効と

考えており、町内事業者と採用に関する情報共有を図っていく。就労支援については、人材紹介料や求人広告料の補助を望む事業者が多く、新年度に向け、町全体の施策優先度等を勘案しながら、事業化を検討している。

ここが
聞きたい

介護人材となりうる入り口

問 介護現場でも有償ボランティアの活躍が増えている。ボランティアが入り口となり介護職員となった事例もあることから、良い事例を参考として、有償ボランティアの活躍の場を広げては。

答 ボランティアは労働ではなく奉仕活動であり、話し相手や見守りなど軽易なものが主な役割。その範囲で活躍の場を広げるには、現場のニーズやボランティアの意見を聞いて検討していきたい。

ここが
聞きたい

積極的に介護職の魅力発信

問 介護職は、きつい、汚い、危険の3Kと言われるが、近年は感謝を分かち合える、心つながる、感動できる等ポジティブにも言われるようになった。やりがいなどの魅力も積極的に発信しては。

答 町広報への介護に関する特集の掲載や、介護職員の声、やりがい、充実感を伝える事例紹介など、町と町内事業者の双方から情報発信する機会を増やせるように連携を図っていく。

ここが
聞きたい

災害時の薬剤師

問 町民の安全と健康を守るため、薬剤師が災害時に活躍できる環境を整えることが不可欠と考えるが、町の見解は。

答 被災者の健康管理は重要。薬剤師に限らず医療

従事者の役割は極めて大きい。道と道薬剤師会では協定を結んでおり、災害時に派遣される薬剤師が、調剤、服薬指導等を行うこととなる。町としては、薬剤師の活動が円滑にできるよう環境整備に努めていく。

ここが
聞きたい

西当別基線川桜並木の整備

問 西当別基線川の桜並木は、有志の保存会の植樹により現在113本の並木となった。近年はきれいに咲き誇っている。太美の桜の名所として、町民とともに整備・管理していく考えはあるか。

答 桜並木は西当別連絡協議会が河川占用許可を受け維持管理しており、既に憩いの場として利用されていると認識。引き続き、地域との協働の下、適切な維持管理に努めていきたい。



西当別基線川の桜並木（本人提供）

「ページの読みやすさ」について、アンケートにご協力ください。



一般質問

かくた ひろすけ
角田 広佑 議員

質問の
ねらい

実効的なハラスメント対策を

全てのハラスメントは、基本的な人権である個人の尊厳、相互の信頼を奪う、許されざる行為である。町における職員間のハラスメント対策の状況について質した。同様に、住民からの行き過ぎたクレームや過度な

要求といった、カスタマーハラスメントにおける町の対策について質した。スクールソーシャルワーカー（以下SSW）※1の募集を続けているが、定着していない現状について、町の分析や対策を質した。



動画はこちら

ここが
聞きたい

町のハラスメント対策

問

町職員間のハラスメント防止や、万が一発生した際の対応手順の整備など、ハラスメントにどのような対策を講じているか。

答

管理能力研修やメンタルヘルス研修でハラスメントの理解を深め対策を学ぶ機会を設けている。また、懲戒処分指針にハラスメントに関する規定を追加する等、必要事項を定めて周知している。

ここが
聞きたい

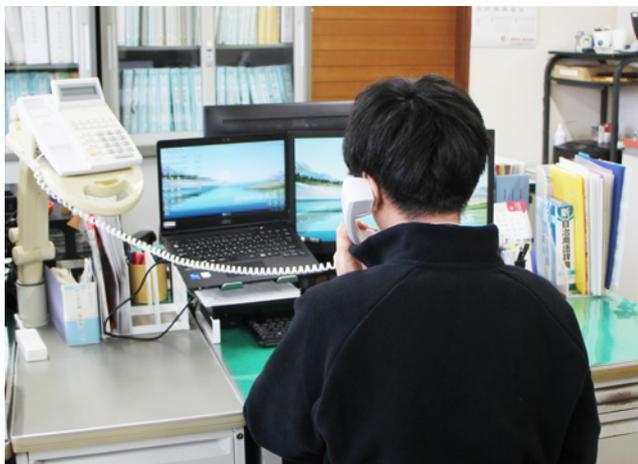
「カスハラ」への対応

問

職員研修の頻度や録音できる電話の設置など、町ではどのようなカスタマーハラスメント対策を講じているか。また、カスハラと疑われる過度な要求等は数としてどれくらいあるのか。

答

組織的に対応することを原則として、行政対象暴力対応マニュアルを策定し、研修会等で周知している。また、通話を録音する機器も設置している。ハードクレーム事案は、9件承知している。



電話対応する町職員

ここが
聞きたい

ガイドラインの規定を

問

他自治体では、カスハラ対策に関する条例やガイドラインの制定、啓発ポスターの庁舎内への掲示等の対策を講じている。町でもガイドライン等を制定し、町民に広く示す必要があるのでは。

答

行政対象暴力対応マニュアルにより、適切な対応が図られているため、現時点で取り組みの見直しは考えていない。さらなる対応が必要となれば、その導入を検討していきたい。

ここが
聞きたい

SSWが定着しない要因

問

町ではSSWの必要性・重要性を認識し、勤務日数の増加や巡回型の導入等、採用に向けて努めてはいるが、未だに採用に至っていない。その原因はどのように分析しているか。

答

担い手となる人材の総数自体が不足していることや、当別町だけではなく他団体でもSSWを必要としており、人材が都市部に集中していることが、採用に至らない要因と考えている。

ここが
聞きたい

採用に向けた取り組みは

問

SSWは、対象者とその保護者の生活に介入することがあるため、時間外や休日の対応となる場合もあり、設定している勤務形態とのミスマッチがある。採用に向けて柔軟に対応すべきでは。

答

採用する以上、勤務条件の提示は必要。規則の範囲内での柔軟な対応は検討する余地がある。全てがミスマッチではなく、学校には特殊な事情もあるため、ある程度の経験は必要と考える。

※1 SSW…スクールソーシャルワーカーの略。児童生徒を環境面からサポートする社会福祉専門職。





動画はこちら

一般質問

やまざき こうじ
山崎 公司 議員

質問の
ねらい

太美駅構内の整備と充実

①1934(昭和9)年11月20日、石狩太美駅が開業し、2024年は90年の節目を迎えた。駅構内の整備、特に設置から40年以上が経過する跨線橋は、冬は滑りやすく対策が必要。また、エレベーターの設置

や南口駐車場の整備も必要と考え、JR北海道との協議状況について質した。②道内のいじめ件数、不登校件数は11年連続で過去最多を更新している。町内の小中学校の現状と対応について質した。

ここが聞きたい 跨線橋にエレベーターを

問 当別駅では25年前に高齢者、身体障害者向けにエレベーターが整備された。太美駅も乗降客が多くなっているため、跨線橋にはエレベーターが必要と考えるが、町の認識は。

答 エレベーターはバリアフリー化の一環としてJR北海道に要望している。設置費用が高額であるため、財源の確保に向けて協議を継続して進めている状況である。



JR太美駅

ここが聞きたい 駅南口の駐車場整備を

問 駐車場は駅北口には整備されているが、駅南口にはなくJRの敷地に駐車している状況。敷地を駐車場として借りるなど、町で駐車場を整備して利便性を高める考えはないか。

答 太美駅南口にスロープや待合室ができたこと、ロイズタウン駅の駐車場が通勤に使われていることなどの実態を踏まえ、町としてどうあったら良いかJR北海道と協議していきたい。

ここが聞きたい いじめ・不登校の実態は

問 町内小中学校のいじめ・不登校の実態は。いじめにより心身に重い被害を負うなどの重大事態は発生していないか。

69件。各校で未然防止、早期発見のため積極的に認知を進めている。不登校傾向を含めた児童生徒数は31名。不登校は主に体調不良や学業不振からなる傾向がある。また、現在、重大事態の発生は報告されていない。

答 いじめの前段階であるいじめ認知件数は3校で

ここが聞きたい 学校外でも学べる選択肢を

問 不登校児童生徒が学校内外で安心して過ごせる場所のほか、学校以外でも学べる選択肢を充実させる必要があるのでは。

外教育支援センターを開設。学習のほか社会見学や調理など、子どもの学びの場を広げている。さらに町内各校にも校内教育支援センターを開設し、一人ひとりの状況に応じた心と学びの支援体制を拡充させている。

答 学校以外の選択肢として、町内2か所目の校

ここが聞きたい 原因把握と適切なサポート

問 不登校の原因を正確に把握し、適切にサポートすることが重要。具体的にはどのような対応を行っているのか。

教職員による教育相談や生活アンケートを実施し、子どものSOSの早期発見に努めている。また、WEBQU※1により学級の状態も含めて客観的に分析し、不登校等の未然防止や早期発見に役立てるよう取り組んでいる。

答 原因の把握や適切なサポートのため、日常的に

※1 Q-U…学校・学級生活への不適応、不登校、いじめ被害の可能性の高い子どもを早期に発見できる心理テスト。ウェブ上で実施できるものがWEBQU。

「ページの読みやすさ」について、アンケートにご協力ください。

